

## 7m スロー時のコートレフェリーの位置取り 両レフェリーの協働作業

2023年1月17日

(公財)日本ハンドボール協会 競技・審判本部

7m スロー時における、コートレフェリーの位置取りと、両レフェリーの協働作業について、IHF 国際ハンドボール連盟の最新の指導内容について以下に記載する。  
競技規則の変更ではなく、「安心・安全」を保障するため、正しい観察、正しい判定を下すことができるための指導内容であるため、国内大会においても積極的に採用していただきたい。

映像

[https://drive.google.com/drive/folders/1Ov4JA5mJIWULcJPYj09tjLfhargVIUf?usp=share\\_link](https://drive.google.com/drive/folders/1Ov4JA5mJIWULcJPYj09tjLfhargVIUf?usp=share_link)

### <映像の解説>

#### ○コートレフェリー

- 1) スローを行うプレイヤーの「利き腕側」に立ち、スローを行うプレイヤーの基準足の位置を確認する。
- 2) スローを行うプレイヤーの「基準足」が観察でき、かつ「シュートの軌道とゴールキーパーの動きが正しく観察できる位置」に、「素早く」移動する（動画では、スロアーの斜め後ろの位置をとっている）。

#### ○両レフェリーの協働作業

- 1) 各種スローの実施を正しく行うことができるかどうかの責任は「コートレフェリー」にある。
- 2) ゴールレフェリーはゴールキーパーの真横になり、仮にボールがゴールキーパーの頭部付近にあたった場合、ゴールキーパーの動きとボールがあたった位置を正しく判断できない可能性がある。
- 3) そのため、コートレフェリーが上記の位置を取ることで、より正しい観察、正しい判定につなげることができる。

○この「両レフェリーの協働作業」は、通常のシュート場面(最終局面)でも同様に運用されるべきであり、モダンハンドボール考え方の中で、プレイヤーの安心・安全を保障するためのゲームマネジメントがより一層求められる。

